



附中だより

2018年12月14日

第11号

宮城教育大学附属中学校

〒980-0011 仙台市青葉区上杉6丁目4番1号 電話 022-234-0347 FAX022-234-0301 <https://fu-cyuu.miyako-u.ac.jp/>

平成30年 終了

今年も残すところあとわずかとなりました。保護者の皆様の、今年一年の本校の教育活動に対する御理解と御協力に対し、心より感謝申し上げます。先日は、授業参観や学年PTA、学級懇談も行われました。来週18日からは冬休みに入ります。(1月8日まで)

3年生は、附属中学校の顔として様々な場面で活躍しました。いよいよ進路を決め、受験をする時期になります。健康管理に気を付け、生活のリズムを整えて、冬休みを大切に過ごしてほしいと思います。御家庭でも、側で見守っていただきたいと思います。

2年生は、新入大会や後期の生徒総会を経て、いよいよ附属中学校の顔となります。この冬休み中に、一人一人が来年に向けての高い目標を持ち、行動に移し始めることを期待しています。

1年生は、中学校生活が始まった1年でした。授業に慣れることももちろんですが、通学にも慣れることも大変だったことと思います。友人関係も広がり、少しずつ自分の世界が広がっていることでしょう。冬休みにはそんな今年1年をじっくり振り返り、また新しい気持ちで過ごすことを期待しています。

附中生の活躍

男子バドミントンサークル	宮城県バドミントン選手権大会 中学校新人 男子団体 第5位
3年1組 永沼さん	第37回みやぎ児童画展 大賞
1年1組 三浦さん	第37回みやぎ児童画展 特選
2年1組 平山さん	第62回日本学生科学賞 宮城県審査委員会 最優秀賞
3年1組 齋藤さん	第62回日本学生科学賞 宮城県審査委員会 佳作
2年4組 高橋さん	平成30年度 宮城県水泳連盟 優秀選手
吹奏楽サークル	全日本アンサンブルコンテスト第52回宮城県大会予選仙台青葉地区大会 ・管楽八重奏 銀賞 ・クラリネット三重奏 銀賞 ・木管三重奏 銅賞 ・打楽器四重奏 銅賞

大学出前講座「ザ・好奇心」

2学年が、12月6日(木)5・6校時に、宮城教育大学の先生方による講義を受講しました。日頃学んでいる教科や科目より専門的な内容のお話を聴きました。講師の先生と講義内容は次の通りです。

英語: Leis Adrian 先生

「プレゼンテーションのやり方について」

理科: 内山 哲治先生

「超伝導ってなんだ?」

社会: 西城 潔 先生

「里山からみると森のいま」

保健: 黒川 修行先生

「脂肪の科学」

講義を聴いて学んだこと

2年 中邨さん

プレゼンテーションの方法や、失敗を恐れることはないということ学びました。私は、失敗すると恥ずかしいし、自分が悪かったから失敗したんだと責めてしまうことがありました。しかし、先生の授業に出てきた様々なF1のレーサーの名言から、まずはやってみようかなと思えるようになりました。

また、私はクリエイティブな考え方をあまりできません。

しかし、絵を描いて友達と見せ合ったときやお店でBランチが売れる方法を考えたりしたときは、「こういうのもありなんだ!」と刺激を受けました。これからは、私もありのままに自分の考えを発信していきたいです。「エイドリアンジャンケン」も、周りに広めていきたいです。



県新人大会を終えて

男子バドミントンサークル長 2年 山田さん

応援ありがとうございました。今回、県新人大会で団体第5位になれたのは、皆さんのおかげです。あと一步のところまで東北大会に出場できませんでしたが、試合から学ぶことが多くありました。チームの中では、声を出すことを意識してきました。チームでは、東北大会出場を目標としてきましたが、出場できなくて悔しかったです。この悔しさを体験できたのは、先輩方が続けてきた努力の結晶だと思います。先輩方から続いた努力を、私達も後輩につないでいきたいです。もちろん、この結果を残せたのは石崎先生の指導のおかげだとも、サークル一皆思っています。

次の大会は、2月にある1年生大会なので、出場できない2年生は1年生のサポートをして、1年生が自分の力を出し切れるようにしていきたいです。これからは、バドミントンの技術の向上だけでなく、チームの団結力を高めていけるようにしたいです。

第62回日本学生化学賞県最優秀賞受賞

2年 平山さん

今年の研究は、オタマジャクシに関する研究の5年目でした。今年は、「カエルの卵に遠心力をかけると、発生にどのような影響があるか」ということを調べました。特に驚いたのは、2分間遠心力をかけたものより5分間遠心力をかけたものの方が正常に発生したという点です。長い時間ストレスを与えた方が正常に発生したのはとても意外な結果でした。また、30Gとかなり大きな遠心力をかけた卵の中で、正常にカエルまで育ったものもあって、生命の逞しさを実感しました。

実験の方法も、自分が求めている条件で実験ができるよう、多くの時間を使って考えました。遠心力をかけるときに、卵の向きが変わらないようにゼラチンで固めるという考えは、多くの時間を使って考えたからこそ出てきたアイデアです。

今回、自分の研究に最大級の評価をしていただき、とても嬉しく思います。ただ、これを終着点ではなく、通過点にしていきたいです。まだまだ多くの疑問があります。その答えに少しでも近づけるよう、さらに努力をしていきたいです。

自分一人では、絶対にこれまで研究を続けてこれなかったと思います。支えてくれた全員に感謝したいと思います。ありがとうございました。



みやぎ児童画展大賞受賞

3年 永沼さん

この作品では、鳥のように羽ばたいて生きたいと願う、1人の少年を描いています。

大人と子どもの間とも言えるこの青年期に周りから多くの刺激を受ける少年と、来年の春にこの附中を巣立ち、新たな道へ進む自分を重ね合わせながら描きました。顔の半分をカラフルにすることで、少年の持つ無限の可能性を表現しています。鳥や葉を細かく描いて、本物に近づけることを工夫しました。

この絵を見た方々が少しでも将来に向けて前向きな気持ちを持ってくれたら嬉しいです。

